

# 当院におけるがん診療提供体制について

がん治療には手術療法、薬物療法、放射線治療と共に、がんにより生じる身体的・精神的症状や社会的な生活上の不安などを軽減する緩和治療が必要です。当院におけるがん診療の提供体制についてご案内いたします。

## 外来化学療法室



外来化学療法室は、外来棟2階の22番にあります。2018年度には、治療用チェアが36席から45席に増床され、より多くの患者さんを受け入れる体制となりました。治療用チェアはリクライニング機能とTV/DVD付きで、ほぼフラットまで対応可能です。室内は明るく開放的な雰囲気、窓からは大山の四季の移り変わりを楽しむことができます。外来での化学療法は、小児科を除く全ての診療科がここで行っています。年間の総治療件数は1万5千件となっており、全国の大学病院の中でもトップクラスの治療実績です。スタッフは専任常勤医師1名、専任常勤看護師2名（がん化学療法看護認定看護師1名を含む）、看護師12名、常勤薬剤師2名で構成されており、それぞれ高度な専門性で、みなさまにより快適で安全な治療を受けて頂くよう努めています。パンフレットや書籍なども用意していますので疑問や質問、またご不安などがありましたら、遠慮なくスタッフまでお声をかけて下さい。また治療中は就労や介護、育児など社会的なご不安も多いことと思いますが、当院の総合相談室にはソーシャルワーカーが常勤していますので、必要に応じて介入してもらい、なるべく治療に専念できるような環境づくりのお手伝いをさせていただきます。国民の2人に1人はがんになる時代ですが、がん治療の進歩にもまた目覚ましいものがあります。病気や治療に対する正しい知識を持ち、恐れすぎることなく一緒にがんを闘っていきましょう。

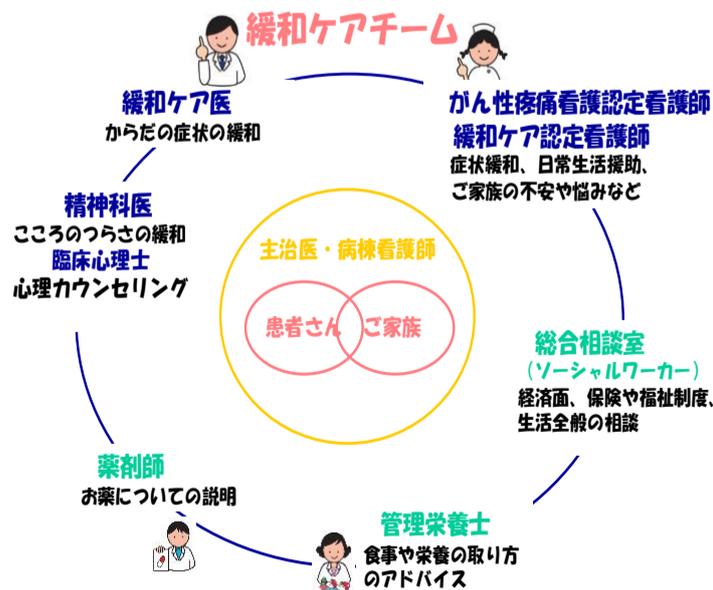
## 放射線治療室

放射線治療は、手術療法、化学療法とともにがんの3大療法の1つです。放射線治療の特徴のひとつは、がんに侵された臓器の機能と形態の温存が可能であることです。放射線治療は単独で治療する以外にも、手術や抗がん剤と併用で使用されることもよくあります。また他の治療法と比較して全身的な副作用は少なく、高齢の患者さんでも外来で治療を受けることができます。全身的な副作用が少ないことから、緩和的治療にもよく使用され効果を上げています。放射線治療室では、放射線腫瘍医、放射線治療技師、看護師、看護助手に加えて、メディカルセクレタリー、受付事務、機器の品質管理を担当する医学物理士など多彩な職種が関わってチーム医療を実践しています。放射線治療機器には最新外部照射装置2台、小線源治療装置1台、X線およびCTシミュレータ各1台を備え、高精度な三次元原体照射や定位放射線治療、強度変調放射線治療にも対応しています。また小線源治療として腔内照射や組織内照射も施行しています。



## 緩和ケアチーム・緩和ケア外来

緩和ケアはがんなどの診断を受けた時から、患者さんとご家族の体や心のつらさを和らげ、出来るだけ快適な生活が送れるように支援させて頂き、その人らしさを大切に考える考え方です。つらい症状を我慢すると、「正しい判断」や「治療を選択すること」が難しくなったり、「治療の継続が困難」になったり、「夜眠れなくなる」、「食欲がなくなる」、「活動が制限される」、「気持ちがおさげ」などが起こり、治療や生活に影響がでることがあります。そのため、つらい症状を和らげる治療を受けることが大切になります。緩和ケアと聞くと、「がんの進行した患者さんへのケア」と誤解し、「自分はまだ緩和ケアを受ける時期ではない」と思われる方がいらっしゃるかもしれません。緩和ケアは、どのような病状や治療の時期であっても、受けることができます。入院中は、多職種による緩和ケア専門のスタッフが緩和ケアチームとして、主治医や病棟看護師などと相談し、体と心のつらい症状を和らげる治療とケアを行います。さらに、退院後の過ごし方や経済的な心配などの社会的な不安についても対応します。入院中に緩和ケアチームの診療を希望される方は、担当医、担当看護師にご相談ください。外来通院中も、緩和ケアを受けることができます。受診を希望される方は、外来担当医に「緩和ケア外来を受診したい」とお伝えください。



問い合わせ先：  
がん相談支援センター（総合相談室）  
TEL: 0463-93-1121（代表）  
内線6141

◎病院HPでも情報を公開しております  
[東海大学医学部付属病院>がん診療連携拠点病院]  
URL: <http://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp>

